

私立大学研究ブランディング事業 2018年度の進捗状況

学校法人番号	281026	学校法人名	学校法人 関西看護医療大学		
大学名	関西看護医療大学				
事業名	セラピーアイランド淡路島の構築を基盤とした地域活性化と看護教育カリキュラム開発に向けた研究拠点の創設				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	360人
参画組織	看護医学部、看護学科研究科、看護診断研究センター				
事業概要	<p>本事業の目的は、行政・市民・支援団体と一体となり、日本遺産淡路島の資源(ヒト・文化・自然)を活用した「セラピーアイランド淡路島」構築の研究・活動拠点を本学に創設することである。その事業活動を基盤として、人的・文化交流を推進することで地域住民の健康増進を図り、地域経済の活性化に寄与する。また、本事業の研究活動成果をもとにセラピーと看護を融合した看護実践能力向上につながるカリキュラムを開発する。</p>				
①事業目的	<p>本事業は、身体・心理・精神の改善をもたらす、人・自然・文化を介在した治療や療法を「セラピー」と定義し、以下を目的として展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 本学を研究拠点とし、日本遺産淡路島の「セラピー」資源の発掘とその効果および実施方法を健康科学の側面から研究開発する。 2) 本学において「セラピー」の提供を含めた妊娠・出産・育児・認知症予防・緩和ケア等のセラピー活用支援モデルの開発及び島内の公共未使用施設を拠点としたモデルの実施とその効果の検証を行う。 3) 淡路島ブランドのセラピー資源の商品開発とその効果の検証を行う。 4) セラピーと看護を融合したより独創的な看護教育カリキュラムを開発し、その成果を全国の看護教育機関等に発信する。 				
②2018年度の実施目標及び実施計画	<p>学外の公共未使用施設を用いたモデルの実施と効果の検証、そこにおける本学の実習の検討、セラピー資源の評価をもとに商品化に向けた検討、サークル活動と効果検証の継続、年次目標達成度の内部評価および外部評価の実施、中間報告書の作成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学外施設におけるモデルの実施と効果の検証 2) 老年、母性・助産、小児看護学等の実習の検討 3) 発掘したセラピー資源の商品化に向けた協働 4) サークル活動と効果検証の継続 5) 事業の内部評価および外部評価の実施、今後の方向性の確認 6) 中間報告書の作成 				
③2018年度の事業成果	<p>2017年度、学外の公共未使用施設をモデル実施場所として選定する計画から、セラピー実施計画に適合する空きスペースをその都度活用するように計画を修正した。そのため2018年度には、12月郡家にある「神楽ミュージアム」を使用し、近隣住民に対して身体をほぐす健康体操(温活セラピー)を指導し、好評を得た。リラクゼーション状況に関する身体反応データを収集する事もできた。</p> <p>また、俳句を日常的に嗜む人々の精神的健康およびQOLや適応状態等を検討し、俳句の健康に及ぼす効果(The effects of Haiku on mental health: Assessed with QOL and digital pulse wave analysis)について、国際学会:48thGlobal Nursing&Healthcare Conferenceにて発表した。</p> <p>淡路島産アロマオイル:鳴門オレンジの効果検証について、研究計画立案および倫理審査の承認を得た。次年度は研究協力者を募集し、計画に基づき検証研究に着手する予定である。</p> <p>淡路島内のセラピースポットで、「癒しの体験」をしている本学の学生たちを淡路島在住のカメラマンが写真撮影し、加えて津名フォトクラブよりセラピースポットの画像提供の協力を得て、「癒しのセラピーマップ」が完成した。また、「癒しの体験」をしている学生たちの身体反応データを収集し、効果を測定した。</p>				

	<p>2) 老年、母性・助産、小児看護学等の実習の検討 老年看護学では、認知症高齢者に対するタッチングケア(ハンドマッサージ含む)を看護技術として位置づけ、演習・実習に取り入れるべく、教員がタッチングケアの研究者よりタッチングに関する所定の講義・演習を受け技術を習得。さらには、タッチングケアの実施およびタッチングケアを受けた高齢者に対する効果を測定するため、老年看護学実習施設にタッチングケア実施・効果検証に関する研究倫理審査を受け、承認を得ることができた。 小児・母性看護学では、母児に対するベビーヨガの指導を演習・実習に取り入れるため、教員がベビーヨガインストラクターの資格を取得。昨年度改修工事を終えたKKIスペースセンターで、学生と共にベビーヨガの技術演習を実施した。また、演習・実習に組み込むためのカリキュラムの検討を行った。</p>
	<p>3) 発掘したセラピー資源の商品化に向けた協働 淡路島特産のカレンデュラを入れたゼリー等試作したが商品化には至らなかった。淡路市の洋菓子店に協力を得て、カレンデュラをパウンドケーキ・フィナンシェ・クッキーに加えたところ、花の美しさを生かすことはできなかったが、おいしく出来上がった。さらに近隣の和菓子店の協力を得てピワ・イチジク・サツマイモを入れた羊羹を試作。ピワ・イチジクの葉を材料に発酵茶も試作した。健康に資する成分を表示できるように、これらの商品に加えた淡路島特産品の成分分析を実施しβカロテンやポリフェノールの含有が確認できた。商品として発売するために、淡路市出身のデザイナーに協力を得て、パッケージデザインを行った。淡路島の牛・玉ねぎを使用したカレー、淡路島伝統の水引あわじ結びの商品化も検討した。</p>
	<p>4) サークル活動と効果検証の継続 2018年度は4つのセラピーサークル(笑い・しんりん・つり・スキューバダイビング)がそれぞれ積極的に活動。セラピー効果に関するデータを経時的に収集した。 5) 事業の内部評価および外部評価の実施、今後の方向性の確認 学外施設におけるモデルの実施は、1カ所1回に止まったが、住民ニーズに基づき活動を展開することができた。他の事業計画も概ね順調に進展している。外部有識者との協議の場を設定することが出来なかったため、次年度は淡路島内の地方自治体・企業・医療機関等ステイクホルダーと協議を行い、事業評価と今後の方向性を確認する予定である。ブランディング事業が4年間で終了することになったため、今後はブランディング事業の成果を発表・発信するなど、広報活動に重点を置いて事業展開する。 6) 中間報告書の作成 中間報告書の作成に12月より取り掛かり、3月には原稿が整った。しかし、最終年度の補助金が打ち切られたことによりブランディング事業が4年間で終了する事となったため、中間報告書の印刷・製本化は見送り、最終報告書にまとめる事とした。</p>
<p>④2018年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <div data-bbox="1066 1182 1465 1413" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>*達成度評価の基準</p> <p>5：年度計画を上回って実施している</p> <p>4：年度計画を十分実施している</p> <p>3：年度計画を概ね実施している</p> <p>2：年度計画を十分には実施していない</p> <p>1：年度計画を大幅に下回っている</p> </div> <p>1) 学外施設におけるモデルの実施と効果の検証 自己評価 4 学外施設におけるモデルの実施は、1カ所1回に止まったが、住民ニーズに基づき活動を展開することができた。島内に根付くセラピーを発掘しまとめたセラピーマップは、編集が終了し完成を待つばかりになっている。そこで取り上げたセラピーの効果検証をさらに迅速に進めるとの課題が確っている。</p> <p>2) 老年、母性・助産、小児看護学等の実習の検討 自己評価 4 それぞれの看護学領域でカリキュラムに取り入れるセラピー技術が決定し、教員の技術習得等、技術を教育内容として取り入れる準備が整った。カリキュラム構築に関しても、カリキュラム委員会と連携し着実に進展している。</p> <p>3) 発掘したセラピー資源の商品化に向けた協働 自己評価 4 地域事業家と連携・協働し、カレンデュラのパウンドケーキ・フィナンシェ・クッキー、ピワ・イチジク・サツマイモの羊羹が完成、成分分析も完了し、販売できる形に到達している。販売ルートの開拓等、課題である。</p> <p>4) サークル活動と効果検証の継続 自己評価 4 4つのサークル活動が順調に展開されている。学生たちは淡路島に根付くセラピーを体験し、日常生活にセラピーを取り入れることの意義を考える機会を得ている。また「癒し」に関連するデータを経時的に収集・蓄積している。今後は、これらを研究へと積み上げ、明確なエビデンスを得ることが課題である。</p>

	<p>5) 事業の内部評価および外部評価の実施、今後の方向性の確認 自己評価 4 事業計画は概ね順調に進展しているが、前述の通り外部有識者との協議の場を設定することが出来なかった。淡路島内の地方自治体・企業・医療機関等ステイクホルダーと協議を行い、事業評価と今後の方向性を確認するという課題が残っている。</p> <p>6) 中間報告書の作成(事業期間年度短縮による文科省指示) 報告書の作成は次年度に送り「最終報告書」としてまとめる予定である。</p> <p>(外部評価)</p> <p>1) 学外施設におけるモデルの実施と効果の検証 外部評価 モデル実施箇所、回数とも1回での検証で効果を図りきれぬか疑問。</p> <p>2) 老年、母性・助産、小児看護学等の実習の検討 外部評価 それぞれの看護学に適したセラピー技術だと感じる。</p> <p>3) 発掘したセラピー資源の商品化に向けた協働 外部評価 地域との連携を図りながら、淡路市特産品を活用した独自性のある商品開発となっており期待している。</p> <p>4) サークル活動と効果検証の継続 外部評価 各種、特徴のあるサークル活動が実施されており継続されている。</p> <p>5) 事業の内部評価および外部評価の実施、今後の方向性の確認 外部評価 内部評価は十分なされていると感じるが、外部へは、事業内容の発信も兼ね評価・報告の場を確保し広くPRしてはと思う。</p>
<p>⑤2018年度の補助金の使用状況</p>	<p>人件費 9,334千円 報酬委託手数料 4,341千円 消耗品費 861千円 教育研究用機器備品 489千円 旅費交通費 368千円 その他 364千円 合計 15,758千円</p>